

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	With/Post コロナ禍に対応した茶の開発・情報発信と「学生に美味しいお茶を」プロジェクトの推進				
研究組織	代表者	所属・職名	茶学総合研究センター	氏名	中村 順行
	研究分担者	所属・職名	県茶業研究センター 研究員	氏名	鈴木 康孝
		所属・職名	県茶業会議所 専務理事	氏名	伊藤 智尚
		所属・職名	食品栄養環境科学部 助教	氏名	斎藤 貴江子
		所属・職名	静岡県茶業振興課 課長	氏名	小林 栄人
		所属・職名	JA 経済連茶業部 部長	氏名	真田 泰伸
		所属・職名	茶学総合研究センター客員研究員	氏名	海野 けい子
	発表者	所属・職名	茶学総合研究センター	氏名	中村 順行

### 講演題目

With コロナ下におけるお茶による地域振興

### 研究の目的、成果及び今後の展望

#### 目的

本特別研究においては、これまでの知見を活かしコロナ禍に対応したお茶の持つ機能性情報を学生のみならず広く一般にも提供する。また、「学生に美味しいお茶を」プロジェクトにより月1回のFree Tea Caféの継続はもとより、季節ごとに異なるお茶や急須を持っていない学生のために様々なお茶の愉しみ方の提案を行う。さらに、本年度から使用されている国際学生寮においても茶の提供はもとより日本茶にまつわる諸々の情報とお茶の愉しみ方、飲み方、健康効果など幅広く情報発信を行うなかで、静岡茶を介して県立大学へのアイデンティティを高め、実りある学生生活につなげていただくことを目的とする。

#### 成果

本年度は、コロナ下において多発しているストレスやうつ様症状を改善するため、若年成人を対象に、抗ストレス効果の高いテアニンにアルギニンを複合摂取することにより抗ストレス効果の増強性や緑茶の主要成分バランスの違いによる抑うつ気分の改善効果を明らかにした。その成果は、全学共通選択科目「(しずおか学)茶学入門」や県民・業界関係者などへのセミナー、大学間連携によるふじのくに学「お茶」などにおいて幅広く情報発信してきた。

また、学生には茶への理解を深め、大学へのアイデンティティを高め、With/Post コロナ禍においても実り豊かな学生生活が楽しめるように、「学生に美味しい静岡茶を」プロジェクトをとおり、日常茶飯事にお茶を愉しむことを期待して、①下食堂のティーサーバーにおける緑茶の提供や月1回のFree Tea Caféの開催、②急須がなくても美味しいお茶を愉しむ方法の発信、③4月に開設された国際学生寮において留学生に日本茶を通じて日本を学ぶとともに実りある学生生活を楽しめるよう、3回のミニ茶会を行った。④草薙地域の活性化事業に携わる学生と連携し、お茶を介しての大学の地域貢献に寄与するなど活動してきた。

#### 今後の展望

今後、茶学総合研究センターでは今まで以上に日本茶の特質や飲み方を提案しながら、日本茶の幅広い魅力を伝え、日本茶の愛飲者になっていただくとともに、茶を介した地域振興に寄与していく予定である。